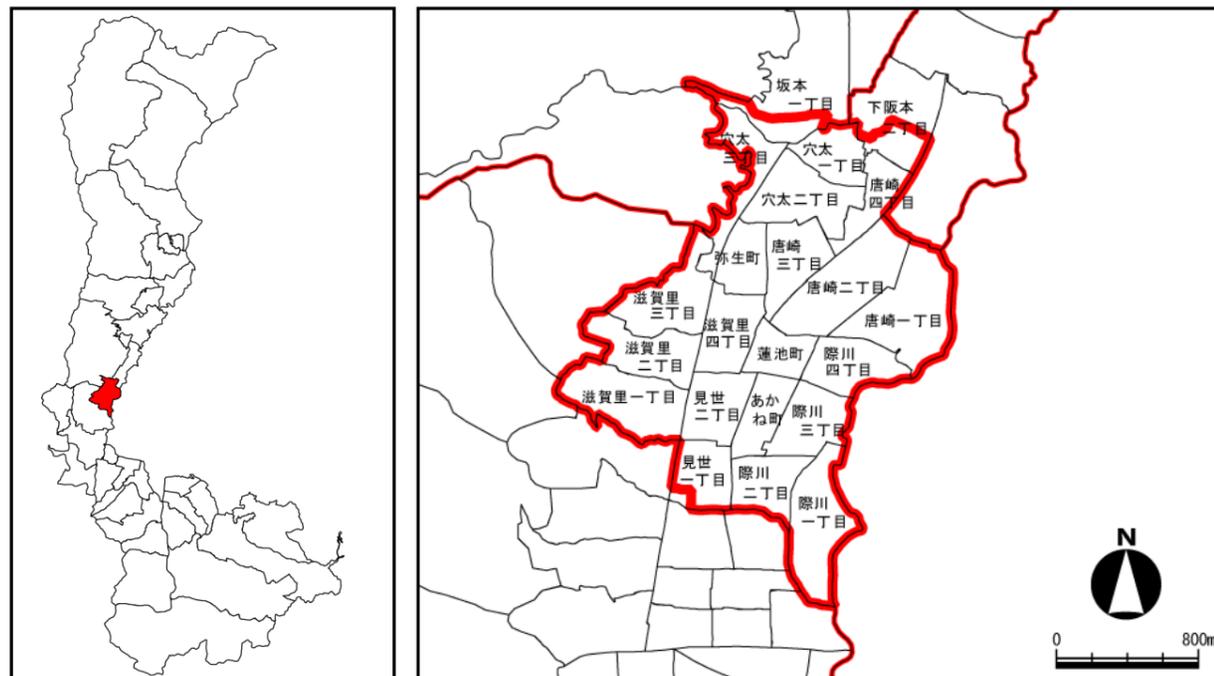


■ 学区の概況



<町丁名>

坂本一丁目の一部、唐崎一丁目、唐崎二丁目、唐崎三丁目、唐崎四丁目、弥生町、穴太一丁目、穴太二丁目、穴太三丁目、下坂本二丁目の一部、滋賀里一丁目、滋賀里二丁目、滋賀里三丁目、滋賀里四丁目、見世一丁目の一部、見世二丁目、際川一丁目、際川二丁目、際川三丁目、際川四丁目、あかね町、蓮池町

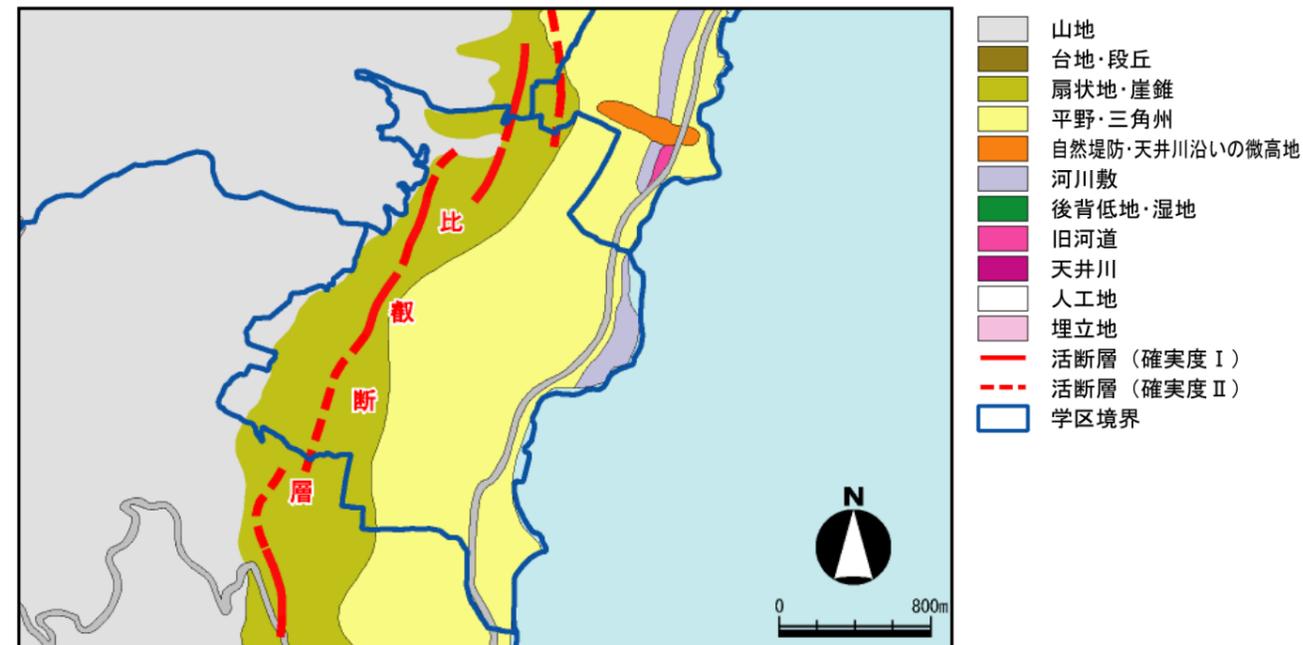
(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

<学区の特徴>

唐崎学区は北を四ツ谷川、南を際川によって限られ、比叡山系から琵琶湖に向かって流れる中小河川が運ぶ土砂によって形成された複合扇状地である。

学区一帯には、縄文晩期の墓地や貝塚が発見された滋賀里遺跡や、百穴古墳群や切畑古墳などの古墳群が存在する。このような多数の古墳群の存在や遺跡の豊富さから見て、この地域には早くから人々が住み着いた先進地域であったことがうかがわれる。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、防災アセスメント調査を行った時点のものである。出典：大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<地形の特徴>

- 唐崎地域の地形は大部分が低地からなり、山側のやや傾斜を持った扇状地、琵琶湖側の低平な氾濫原に細分される。湖岸には一部河川敷が分布している。

<地質の特徴>

- 坂本学区より石山学区まで扇状地が連続的に分布し複合扇状地になっている。これは40万年前頃から地殻変動の活発化に伴って、比良、比叡の両山地が上昇し、多量の砂礫が供給されたことや、流域面積の小さい河川が多数分布することなどに起因する。

<活断層の特徴>

- 扇状地の分布域に比叡断層の北部が通過している。比叡断層は、坂本から三井寺付近まで延びる、長さ約8.5kmの活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。
- 穴太廃寺跡の遺跡からは、何条もの地震跡が発掘された。この地震跡は、地震に伴う地割れの跡に周辺の土砂が埋まったものと考えられているが、歴史上のどの地震に対応するのかが判明していない。

■ 建物の状況

町丁目名	住宅密集度 (戸/ha) (注1)	不燃領域率 (%) (注2)	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
坂本一丁目	58.9	81.8	78.3	35.9
唐崎一丁目	65.4	58.1	77.8	23.8
唐崎二丁目	85.8	83.9	72.7	31.5
唐崎三丁目	66.4	67.4	76.9	52.7
唐崎四丁目	70.8	64.1	92.1	0.8
弥生町	73.5	68.3	82.4	29.0
穴太一丁目	66.2	60.5	82.7	50.9
穴太二丁目	54.7	74.3	82.8	40.7
穴太三丁目	57.6	75.8	69.6	48.1
下阪本二丁目	68.2	66.0	86.7	24.1
滋賀里一丁目	61.4	73.0	79.9	57.3
滋賀里二丁目	58.5	61.1	81.0	62.5
滋賀里三丁目	61.0	77.7	77.6	51.7
滋賀里四丁目	60.1	69.9	85.1	7.3
見世一丁目	69.2	81.1	84.5	15.2
見世二丁目	58.4	76.4	78.8	33.5
際川一丁目	-	-	31.6	58.3
際川二丁目	85.4	66.0	81.3	44.5
際川三丁目	121.3	74.1	83.4	60.7
際川四丁目	69.1	77.2	77.7	19.8
あかね町	69.9	60.4	77.7	32.6
蓮池町	64.7	72.8	72.0	56.7
学区平均	67.4	73.7	80.0	38.3
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした。

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1: 大津湖南都市計画基礎調査 (H30.2) 土地利用現況

2: 資産税データ (R4.4)

- 住宅密集度の学区平均は 67.4 戸/ha で市平均 (全学区の平均) の 59.3 戸/ha より高い。
- 不燃領域率の学区平均は 73.7% で市平均の 93.9% を下回り、市内で 4 番目に低い。
- 木造率は、唐崎四丁目が 92.1% で最も高く、際川一丁目が 31.6% で最も低い。学区平均は 80.0% で市平均 72.7% を上回り、市内で 3 番目に高い。
- 旧耐震木造建物割合は、滋賀里二丁目が 62.5% で最も高く、唐崎四丁目が 0.8% で最も低い。学区平均は 38.3% で市平均 40.3% より低い。

■ 人口の状況

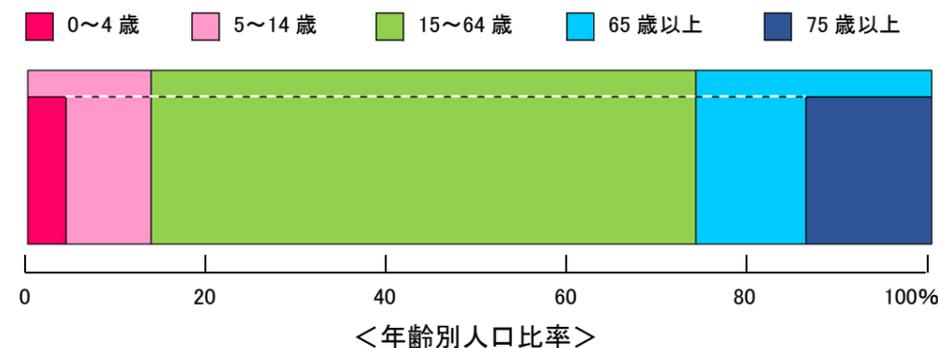
項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	16,584	人		-	1
年齢別 (0~4 歳)	702	人	学区人口に対する割合	4.2	1
年齢別 (5~14 歳)	1,542	人	学区人口に対する割合	9.3	1
年齢別 (15~64 歳)	10,014	人	学区人口に対する割合	60.4	1
年齢別 (65 歳以上)	4,326	人	学区人口に対する割合	26.1	1
年齢別 (75 歳以上)	2,305	人	学区人口に対する割合	13.9	1
世帯数	7,671	世帯		-	2
1 世帯当たり人口	2.2	人/世帯		-	2
要介護認定者	1,044	人	学区人口に対する割合	6.3	3
身体障害者 (要配慮者)	233	人	学区人口に対する割合	1.4	4
知的障害者 (要配慮者)	45	人	学区人口に対する割合	0.3	4
外国人居住者	243	人	学区人口に対する割合	1.5	5

(注) 1 世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1: 年齢別・学区別人口統計表 (R4.3.31 現在)、2: 学区別人口・世帯数の年別推移 (R4.3.31 現在)

3: 学区別要介護認定者 (R4.4.30 現在)、4: 大津市データ (R4.3.31 現在)

5: 住民基本台帳情報からの統計 (R4.3.31)



- 高齢者 (65 歳以上) は 4326 人、乳幼児 (0~4 歳) は 702 人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ 26.1%、4.2% である。
- 乳幼児の学区人口は、市内で 5 番目に多い。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均 (27.2%) より低く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均 (3.9%) より高い。
- 要介護認定者は 1044 人 (6.3%)、身体障害者 (要配慮者) は 233 人 (1.4%)、知的障害者 (要配慮者) は 45 人 (0.3%) である。
- 外国人居住者は 243 人 (1.5%) である。



■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所 ^(注1)	12 箇所	1
土石流危険渓流 ^(注1)	8 箇所	1
土砂災害特別警戒区域 ^{(注1)(注2)}	29 箇所	2
土砂災害警戒区域 ^{(注1)(注2)}	50 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹） ^(注1)	0 箇所	3
山地災害危険渓流（溪流） ^(注1)	3 箇所	3
雪崩危険箇所 ^(注1)	0 箇所	4
地すべり防止区域 ^(注1)	0 箇所	5
地すべり危険箇所 ^(注1)	0 箇所	1
浸水想定区域 ^(注3) (0.0m~0.5m)	287,799 m ²	6
(0.5m~1.0m)	127,490 m ²	6
(1.0m~2.0m)	68,005 m ²	6
(2.0m~)	61,614 m ²	6
特に重要な水防区域 ^(注1)	0 箇所	7
重要水防区域 ^(注1)	1 箇所	7
防災重点農業用ため池 ^(注1)	1 箇所	8

(注1) 危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

(注2) 複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

(注3) 浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 学区東部地域の湖岸域には防災上注意の必要な危険箇所の指定部は少ないが、西部の広い地域が土石流危険渓流の影響範囲に指定されており、急傾斜地崩壊危険箇所が点在する。またそれらの危険箇所付近に比叡断層が南北に通過する。
- 扇状地周辺では、土石流危険渓流及び急傾斜地崩壊危険場所部分に警戒が必要である。また、地震時には、山地部で崩壊が生じ、2次的に災害が発生する可能性があることにも留意する必要がある。
- 市街地部では内水氾濫にも注意が必要である。また、琵琶湖岸では琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域があるため注意が必要である。
- 地震発生について、比叡断層が直接活動した場合は断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 湖岸域では、液状化の可能性もある。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	唐崎小学校グラウンド	○	○	○		際川四丁目 7-1
	唐崎中学校グラウンド	○	○	○		唐崎二丁目 9-1
	唐崎幼稚園グラウンド	○	○	○		際川三丁目 38-2
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	唐崎市民センター	○	○	○		唐崎二丁目 10-1
	唐崎小学校体育館	○	○	○		際川四丁目 7-1
	唐崎中学校体育館	○	○	○		唐崎二丁目 9-1
	唐崎幼稚園	○	○			際川三丁目 38-2
	埋蔵文化財調査センター	○	○	○		滋賀里一丁目 17-23
	滋賀里交流センター	○	○	○		滋賀里一丁目 9-11
指定避難所	唐崎中学校武道場			—		唐崎二丁目 9-1
	(福) 唐崎児童クラブ			—		際川三丁目 38-2

(注) 指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※(福)印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
唐崎市民センター	唐崎二丁目 10-1	579-5614

<警察 110>

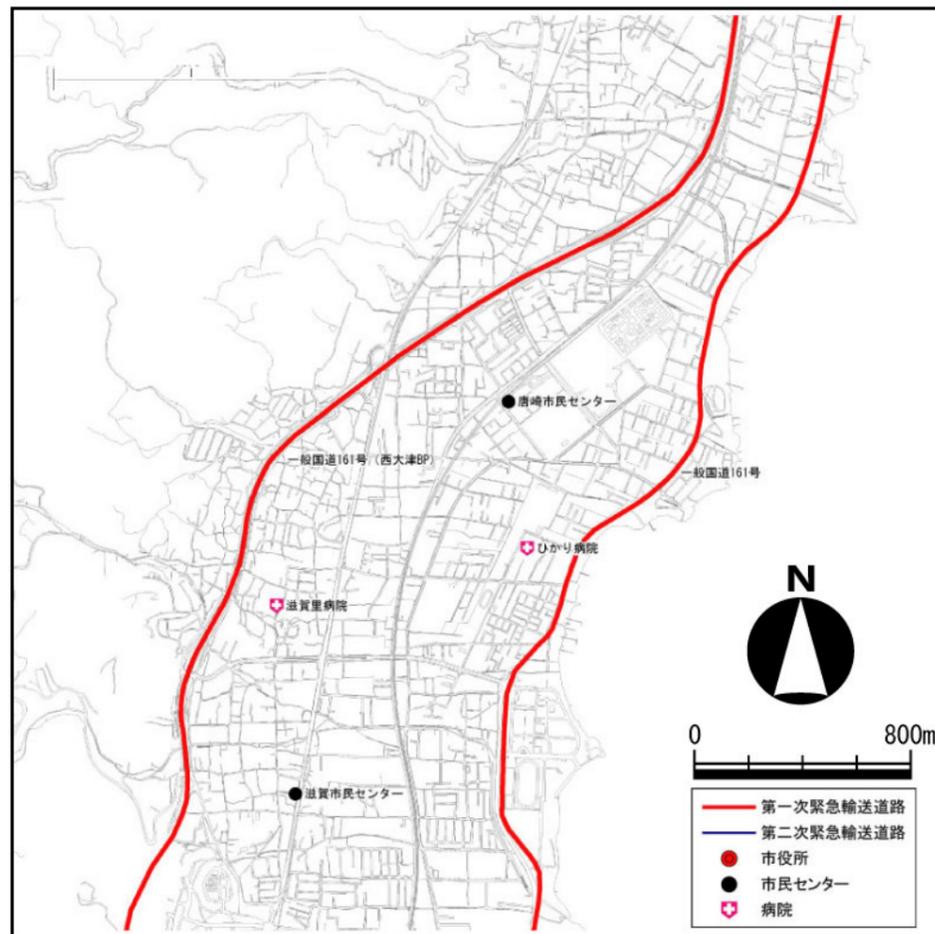
名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津警察署	打出浜 12-7	522-1234
唐崎駅前交番	唐崎三丁目 10-25	578-7110

<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
中消防署	御陵町 3-1	525-0119
西分署	坂本三丁目 27-33	579-0119
唐崎分団	唐崎二丁目 10-17	579-4565



<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院	病院	大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111
		滋賀里病院	滋賀里一丁目 18-41 522-5426

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	死者数			負傷者数			重症者数		
						早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	4,986	15,705	1,696	1,167	2,280	47	28	31	170	96	113	8	5	6
ケース2	4,986	15,705	1,659	1,183	2,250	48	27	32	167	98	112	8	5	6
ケース3	4,986	15,705	1,087	1,325	1,750	22	13	14	252	143	168	13	7	8

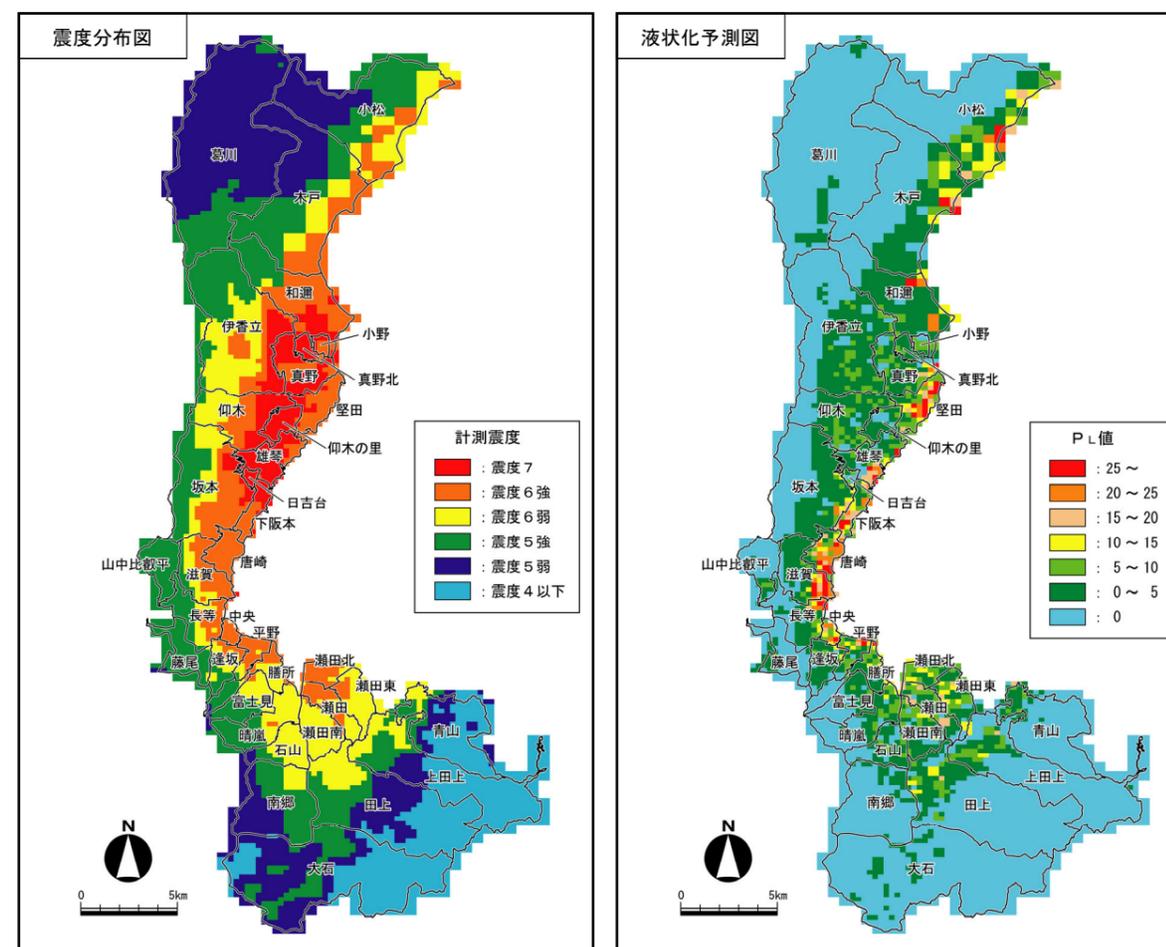
被害想定ケース	地震火災炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	3	4	2,596
ケース2	2	3	5	2,586
ケース3	1	2	3	2,186

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3)

(PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生
PL ≥ 20 激しい液状化)

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)